

科学と社会委員会
政府・産業界・市民との連携強化分科会
(第25期・第1回) 議事概要

1. 日 時：令和3年5月31日（月）17：00～19：05

2. 会 場：オンライン会議

3. 出席者：岩井委員、大塚幹事、小林委員、神田幹事、北島委員、西村委員、岸本副委員長、菱田委員長、山口委員

4. 議 題：

冒頭、菱田副会長から分科会の設置目的等について説明があり、引き続き各委員より自己紹介が行われた。

(1) 役員の選出について

山口委員より委員長として菱田委員の推薦があり、全員一致で選出された。また委員長が岸本委員を副委員長に、大塚委員と神田委員を幹事に指名した。

(2) 分科会の活動方針について

菱田委員長より、資料に基づき、当分科会の活動のロードマップについて説明があった。提言の実現に向けた外部機関との意見交換や次の提言作成への系統的フィードバック、科学と社会委員会付置の題別審議等査読分科会の位置付け等が説明された。委員からの主な意見は以下の通り。

- ・政府、経済界、学協界、マスコミ等との意見交換では、今まで出した提言のうち、これからの展開が期待できるものをピックアップし、説明していく活動をしたい。
- ・市民と話し合って提言すべきテーマを見出すのであれば、時間と手間をかける必要がある
- ・「日本学術会議のより良い役割発揮に向けて」の意思の表出と科学的助言機能の強化のために、従前の考え方やプロセスを変えていく方針について、会員はともかく連携会員まで伝わっていないのではないか。
- ・学術会議の提言は、特定の学界内に閉じるのではなく、他分野への発展や市民への発信（子どもに向けた未来像を含む）を含むべき。
- ・当分科会から他の分科会に議論のテーマを提供することもありえる。
- ・当分科会は提言と政府・産業界・市民との間をつなぐ機能を有するものと理解している。

続いて神田幹事より、過去の提言のインパクトレポートについての説明があった。委員からの主な意見は以下の通り。

- ・提言内容にきわめて似通った政策が成立しても、提言が反映されたと認められていないものもある。
- ・インパクトレポートを提言発出の1年後に提出することを決めた理由は何か。より長期的なタイムスケールで考えてもいいのではないか(事務局より、平成18年に発出から1年以内に提出することを決定したとの説明あり)。
- ・最近では学術会議からの答申は発出しておらず、提言のみとなっている。諮問を受けるように行政との定期的な懇談を行える機会があるとよい。

外部機関との意見交換にあたり、これまでに学術会議が発出した提言の中から実現に向けて進めるべきもので、意見交換先と関係深いものを選択する作業を各委員が行うこととした。

(3) その他

市民との対話や産業界との意見交換を進めるにあたり、キーパーソンを当分科会の委員として追加することとし、各部から2名程度を推薦することとした。

以上